

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1174300390		
法人名	医療法人社団 清心会		
事業所名	しゃくなげ荘		
所在地	埼玉県本庄市前原2-2-3		
自己評価作成日	平成23年1月1日	評価結果市町村受理日	平成23年3月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kohyo-saitama.net/kaigosip/Top.do
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社ユーズキャリア		
所在地	埼玉県熊谷市宮前町2-241		
訪問調査日	平成23年2月17日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域との密着を重視し、地域福祉への貢献と家庭的な環境のもとで日常生活が送れるよう取り組んでいる。
理事長が認知症専門医であり、体調不良時の迅速な対応や定期的な往診により利用者・家族はもとより職員も安心して日々のケアに取り組んでいる。またターミナルケアも行っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは静かな住宅街の中にある2ユニットのグループホームで、棟続きの小規模多機能と共に運営している。地域住民との交流も盛んに行われ、ボランティアの来訪も多く、入居者の楽しみとなっている。生活空間はA棟B棟を有効に活用してダイニングとリビングに分け、入居者は自由に行き来し、各々居心地の良い場所で穏やかに過ごしている。法人の代表が認知症の専門医で、ホームの主治医でもある事や、隣接施設に看護師がいる事から、体調の急変時や重度化しても医療との連携が図られ、入居者や家族、職員の安心に繋がっている。職員の定年制は設けず、地域住民が多く働き、市からの雇用要請も受入れる等「地域福祉の貢献」を実践しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「地域福祉に貢献する」という理念のもと、地域の方とのつながりを大切に、また市役所福祉課との連携を密に行っている。	「地域福祉に貢献する」という理念の共有と実践にホーム全体で取組む為、施設長は日頃から職員と話し、地域や市のニーズ把握にも努めている。	理念は掲示されているが字が小さく分かり難い為、入居者や家族、来訪者に見易い掲示方法の検討や、理念を実践する為の具体策を職員間で話し合う事が期待される。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会主催の夏・秋祭りには、たくさんの地域の方々が参加しており、利用者も楽しみにしており、交流の場となっている。またボランティアによるコンサートの参加も近所の方に呼びかけている。	自治会に加入してゴミ拾いに参加する等、地域と頻りに交流している。ボランティアの来訪も多く、入居者の楽しみになっている。地域住民が運営推進会議のメンバーに入る等、良好な関係を築いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設長自ら、医師会主催の講演会で地域に密着した福祉について講演を行い、折に触れ事業所の実践を伝えるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	小規模多機能ホームと一緒の運営推進会議において外部評価の結果や現在の利用者状況を報告し委員からの意見を参考に実践に努めている。	2ヶ月に1回開催している。ホームの行事に合わせて開催し、家族や地域住民の参加も多い。支援センター職員や退居者家族もメンバーに入り、外部評価の結果や入居者の現状報告等活発な意見交換の場となり、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市福祉課や介護課と連携を密にとり生保の方や退院後の方の入所相談や受け入れを行っている。	開設当初より「地域福祉に貢献する」という理念に基づき運営し、市担当者からの相談事も多く対応してきた実績があり、良好な協力体制が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修で拘束行為について理解を深め声かけ・傾聴で対応しているが、点滴中や玄関のカギは実施している。	研修等を実施して理解を深めているが、家族の要望もあって安全確保が優先されている面もある。玄関の施錠は24時間外から解除が出来、いつでも面会は出来るが、内側からは開かない。外出願望のある方については個別に対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	機会ある毎に職員研修時に話し、虐待防止に徹底的に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方に活用出来るよう、研修等で学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	疑問点の無いよう十分な説明を行い、署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者から不満等が伝えやすい様に声掛けに工夫をするようにしている。苦情・相談窓口は設けてあるが、ご意見箱を設置し苦情等意見の収集に努めている。また県・市町村の苦情受け付け窓口の説明も契約時にしている。	日常会話の中から入居者の意見を吸い上げ、職員会議等で話合っている。又、ホームの行事に合わせた運営推進会議には多数の家族が出席し、行事等に対する意見や要望を頂き、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている職員研修や常勤者会議で職員の意見、要望を聞いている。施設長と一緒に昼食の時間でも職員の意見・要望を聞いている。	定例の職員会議の他、日頃から施設長が必ず職員と食事を共にし、新聞やニュース等の話題を提供しながら、職員の気づきや意見を聞く機会を設け、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会、講習会への参加援助や勤務時間の希望受け入れをしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会には積極的に参加させている。管理者が講師となり毎月研修会を実施している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の協議会、研修会を通じ交流を深め、質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談時に家族と本人に面談し、希望や不安なことを聞き出し受け止めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に家族が困っていること、不安または希望をじっくり伺い、それらの解消に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人、その家族により必要としていることは異なるので、よく話し合いケアプランを立てている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	傾聴やグループワークで楽しみ、誕生日会や夕食会も一緒に楽しく過ごしている。利用者本人から本庄の歴史を教えて頂くこともある。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも来荘していただき、一緒に食事や居室での一時を過ごしていただきながら、日頃の生活状況も伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の写真集を開き、そのころの思い出話などを聞いたり、入居者の教え子がボランティアとして来てくれたり今でも友好を深めている。またなじみの床屋さんに訪問していただいている。	家族との外出やボランティアの来訪等、馴染みの関係を大切にしている。ボランティアは行事に欠かせない存在になっている。又、退居者の家族が立ち寄ってくれる等、関係を継続しやすい雰囲気作りに努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間の関係を大切にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退所した家族との連絡も密に保っている。運営推進会議のメンバーにも加わっていただき意見を聴いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活ができるよう、一人ひとりの思い出や希望に感心を持ち、ケアプランとして検討している。	日常の関わりの中で個々の生活歴や尊厳を尊重しながら、その方らしい生活が出来るよう希望や意向の把握に努めている。困難な場合は回想法を用いたり家族から情報を収集し、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族・本人から、できるだけ詳しく聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況・心身の状態を把握し、記録として残している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望に添うようにケアプランを作成し、毎日の変化に気づき次のケアプランに活かせるようにしている。	ケアプラン実施状況表に日々の関わりの記録と小さな気づきや職員のアイデア等をメモして情報提供し、主治医や家族等必要な関係者との話し合いに活かし、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残しケアプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	体調不良時の通院や入院時の手続き、また娘さんの結婚式への出席のための準備や付添など、その時々ニーズに対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社協の方との面会やボランティアとのレクリエーションや会話を楽しみにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への通院等には、職員が付き添い状態を報告している。訪問歯科も受けている。 眼科は往診診療をしていただいている。	定期往診の他に歯科、眼科往診もある。専門医療機関の通院には職員が付添い、家族には状態報告をしている。緊急時や夜間も医療機関との連携が整っている事が、入居者や家族にとって安心につながっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	発熱やじょくそう、傷など気付きを伝え、看護師から医師への報告により薬処方や点滴など適切な処置を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護師が中心となり、病院等との連携・情報交換をしている。 入院中の衣類交換・洗濯などは職員が行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族との間で、ターミナルケアについての相談を、早い時期から十分に行っている。また家族の方に安心して頂けるよう日々の変化はその都度、主治医と家族に連絡している。	入居時及び入居者の状態に応じて、重度化や終末期について指針を説明し、意思確認と同意書の提出を頂いている。ターミナルケアの実践については主治医と家族で話される。医師、看護師のサポートもあり、過去に13名の看取りが実践されている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急連絡網の整備、研修の実施をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	本庄消防署・本庄防災の指導で平成22年5月に訓練を実施。地域への協力依頼は努力目標としている。	年2回の訓練の内、緊急連絡網を使用した夜間想定訓練も実施している。運営推進会議で地域にも訓練計画及び実施報告を行っている。自衛消防団に加入し、地域の訓練に参加する等関係を築いているが、ホームの訓練に地域の方の参加はない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴やトイレの時には、十分な配慮を心がけている。	入浴や排泄介助は、介助に十分な配慮と同性介護を心掛けた実践をしている。又、一人ひとりの人格を尊重した言葉掛けや、その方らしい対応に詳細の注意をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け・傾聴により、本人の思い・気持ちを知る機会を作っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースに合わせた生活をしていただくように、声掛けなどにより対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ひげ剃りを一緒に行ったり、馴染みの理容師さんに訪問していただいたりしている。また職員により散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備を利用者が一諸にすることは、現在の利用者の状況では無理があるが、下膳については、できるだけ自身でして頂くようにしている。月に一度の食事会を皆さんとても楽しみにしています。	1ユニットの厨房で食事を作り、2ユニットの入居者全員で食事をしている。入居者が重度化し、職員は一人ひとりに声掛けしながら介助をしている為、一緒には食べてはいない。月1回の「うな重」の出前や行事食の「ちらし寿司」等は入居者の楽しみとなっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事で十分な栄養が取れない方は、経口栄養剤補給や卵を追加したり、偏食の方にも食材の工夫で対応している。脱水防止の為にイソトニック飲料も使用している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケア・入歯の清掃を毎日支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	常時オムツ使用は避けるようにして、状況に応じてリハビリツツ、トイレ誘導・介助をしている。	重度化して排泄の自立支援が困難な方もいるが、不快にならないよう段階を踏んで個々に対応している。重度になっても出来る限りトイレで排泄出来るよう2人介助で支援している。失禁時はさりげなく風呂場に誘導して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日健康記録をチェックし、センナ茶や漢方薬で便秘予防対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	原則曜日を定めて入浴日を設定し、ゆったりとした気分で入浴できるようにしている。	日曜日以外は毎日入浴可能な体制とし、ゆったりとした気分で入浴出来るよう支援している。重度の方は隣接施設の機械浴を利用した安全、安楽な入浴を支援している。拒む方には無理強いせずタイミングを計って対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせ、自分の部屋で休息したり体調管理の為ベッド上で静養している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認をし、服薬管理と症状の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ホール清掃、洗濯物たたみ、布きり等各人の力に合わせた役割で、楽しみながら作業をしていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的な外出は現在の利用者では無理があるので、家族同伴での外出をお願いしている。 お彼岸・お盆・新年に、家族と出かけられる機会を大切にして頂くため、事前準備を整える支援をしている。	入居者の身体状況から日常的な外出は困難になり、お花見や藤棚の見学、家族同伴の外出等限られたものになっているが、事前準備や体調管理等の外出支援に努めている	遠出ばかりを外出支援と考えず、天候や体調の良い日に近隣を散歩したり、短時間でも外に出て日光や外気に触れ、五感で季節を感じたり、気分転換を図る支援が期待される。又、個々の希望に添った外出支援も期待される。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現時点の利用者には、お金の管理については無理があるので、家族との了解で、お金を所持している利用者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話や知人からはがきをとても楽しみにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	静かな住宅街に位置しており、室内にはいつも季節の草花で季節感を感じるように心掛けています。	2ユニットの居間をリビングとダイニングに分けて有効に活用している。日当たりの良いリビングでは各々自由に過ごしている。季節の飾り付けを工夫し、職員が持ち寄った草花を飾る等季節感を出し、居心地の良い共有空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気のあった者同士の交流に心掛け、居室での静養も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の練れ親しんだ品や、家族との写真・仏壇などで心穏やかに過ごすように配慮している。	本人の慣れ親しんだ品物や仏壇等が持ち込まれ、家族との写真や絵等が飾られ、その方に合わせた居室となっている。掃除も行き届いて清潔で、居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー・手すりなど、自立に向け工夫している。		